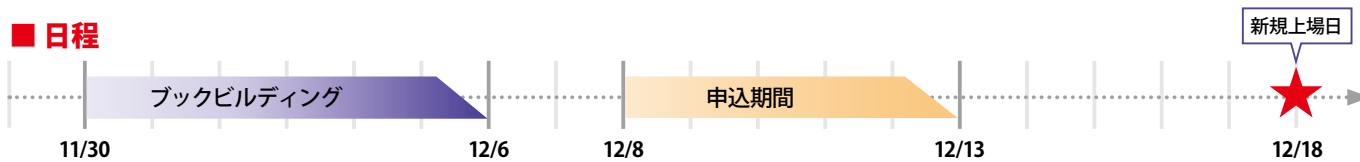


IPO銘柄 すららネット (3998・マザーズ)

コード	投資単位	公開株式数	仮条件 (上限 PER)	主幹事証券
3998	100 株	公募: 11.00 万株 売出: 11.50 万株 (OA3.37 万株)	1,900 円 ~ 2,040 円 (39.0 倍)	みずほ証券

■ 日程



オンライン学習教材「すらら」サービスを提供

■ 事業内容

学習塾、学校法人などに対し、オンライン学習教材「すらら」サービスを提供する。「すらら」は小学校低学年から高校生までの低学力の子どもを対象とし、インターネットを通じて国語、数学、英語の3教科を学べる、対話型のアニメーション教材で、導入校数は9月末時点693校、ID数は4万9,820。「すらら」を活用した教育カリキュラムの提案、成功事例や各種ノウハウを提供し、学習塾や学校法人に対し経営支援サービスを行う。さらに、学習塾の独立開業を目指す人に向け、物件探し、資金調達、集客など、塾経営に必要な開業支援サービスの提供も手掛ける。他社とのコラボレーションでサービス拡充を図っており、凸版印刷 (7911)、NTTドコモ (9437)、チエル (3933・JASDAQ) などと提携している。

■ 特徴

「すらら」は10～15分程度のスモールステップで理解を助けるレクチャー機能、理解したことを定着させるドリル機能がセットになっており、導入すれば自宅で子どもたちが個々の学力に応じた学習を自立的に進めることが可能になる。対話型アニメーションを利用し、子どもを飽きさせない工夫もしている。

アナリストコメント

■ 定量分析

17年12月期の非連結経常利益は前期比5.2%増の8,600万円を予想する。eラーニング市場の拡大に恩恵を受けて成長しているものの、足元は小学校低学年版や海外版といった新サービスへの投資があつて利益が伸び悩む見通しにある。

■ 定性分析

学校、教育分野のIT化は株式市場でも注目されるテーマで、成長期待が大きい。足元の収益規模の小ささが敬遠材料となる可能性もあるが、注目テーマに乗る有力ベンチャーとして人気を集めそうだ。NTTドコモや凸版と提携関係にある点もポイント。

■ 需給状況

仮条件の上限で試算した市場からの吸収金額は5億円程度。軽量級案件ではあるが、筆頭株主が投資ファンドであるため、株主構成の圧迫感が買い意欲をそいでしまう可能性がある。12月18日の4案件同日上場のひとつであるため、初値買い資金の分散も懸念される。(小泉健太)

■ 類似企業

すららネット(3998・マザーズ)	予想PER39.0倍 (仮条件上限)
チエル (3933・JASDAQ)	予想PER30.7倍
学研ホールディングス (9470・東証1部)	予想PER13.7倍

■ 引受証券

みずほ証券、SMBC日興証券、大和証券、SBI証券、岩井コスモ証券、マネックス証券

業績・財務指標

	売上高 (百万円)	前年比 (%)	経常利益 (百万円)	前年比 (%)	純利益 (百万円)	前年比 (%)	EPS (円)	1株あたり 年間配当金(円)
15年12月期(実績)	497	21.3	62	▲ 4.1	27	▲ 55.1	24.9	—
16年12月期(実績)	585	17.7	82	31.7	53	97.3	49.2	—
17年12月期(会社予想)	717	22.5	86	5.2	57	6.9	52.3	—

※ 17年9月に株式分割(1株→1,000株)を実施。15年12月期と16年12月期のEPSは遡及修正

	発行済み 株式総数(株)	総資産 (百万円)	純資産 (百万円)	資本金 (百万円)	BPS (円)	自己資本比率 (%)	自己資本当期 純利益率(%)
15年12月期	1,093	433	299	137	267.7	69.2	9.5
16年12月期	1,093	487	353	137	373.7	72.5	16.5

※ 15年12月期と16年12月期のBPSは遡及修正

大株主上位(上場前)

	氏名または名称	所有株式数(株)	所有割合(%)
1	Globis Fund III, L.P. 常任代理人 東 西総合法律事務所	360,000	30.18
2	湯野川 孝彦	276,000	23.13
3	Globis Fund III(B), L.P. 常任代理人 東西総合法律事務所	101,000	8.47
4	柿内 美樹	91,000	7.63
5	マイナビ	75,000	6.29
6	ベネッセホールディングス	72,000	6.04
7	凸版印刷	62,000	5.20
8	ドコモ・イノベーションファンド投資 事業組合 業務執行組員 NTTドコ モ・ベンチャーズ	53,000	4.44
9	山下 梢	19,000	1.59
9	竹内 淳子	19,000	1.59
9	藤岡 一紀	19,000	1.59

経営陣

役職	氏名
代表取締役社長	湯野川 孝彦
取締役(企画開発グループ長)	柿内 美樹
取締役(経営管理グループ長)	数藤 剛
取締役(マーケティンググループ長)	葉山 勝正
取締役	出口 彰浩
取締役	丹羽 数夫
常勤監査役	鈴木 正通
監査役	小林 洋光
監査役	江口 耕三

モーニングスターIPOレポートの読み方

特 徴

モーニングスター IPO^(※1) レポートでは、日本国内の取引所に新たに上場する銘柄を取り上げ、モーニングスターが位置する中立的な第三者としての立場から IPO に関する情報を提供いたします。ブックビルディング^(※2) が始まる前にレポートを提供することにより、IPO への参加を検討している投資家にとって有用な情報となるでしょう。モーニングスター IPO レポートには、企業名・コード・公開株式数など基本情報やブックビルディング期間・申込期間など IPO 日程のほか、モーニングスターの担当アナリストによるコメントを掲載いたします。

※1 IPO (Initial Public Offering)：新規株式公開。

※2 ブックビルディング：引受証券会社が機関投資家などの意見をもとに決定した仮条件を投資家に提示し、投資家の需要がどの程度あるかを把握することによって、マーケットの動向に即した公開価格を決定する方法。一般的に需要積み上げ方式と呼ばれる。

項目説明

■ 事業内容

新規上場する企業の事業概略を解説します。主要製品やサービスのほか、セグメント別の売上高構成比率などを記載。新規上場時の事業の状況や、先行きの見通しなども交えて分かり易くお伝えいたします。

■ 特徴

新規上場企業の設立経緯から現在の事業環境、ビジネスモデルや事業の強み、顧客動向、業績内容、海外展開、経営陣など様々な観点から特筆すべきエッセンスのみを抽出し、掲載いたします。

■ 定量分析

新規上場時に開示される前期、前々期の業績実績と今期の会社計画を用い、業績の成長性や収益性、財務安定性の面から新規上場銘柄を分析いたします。

■ 定性分析

新規上場銘柄が持つ事業の特性や事業環境、セクター動向などを踏まえ、定性的な評価をするほか、足元の株式市場の状況などを考慮して、マーケットから見た新規上場銘柄に対する見方なども掲載します。

■ 需給状況

公募・売り出しの株数と仮条件をふまえ、市場からの吸収金額を試算するほか、足元の新興市場の動向、類似企業の株価推移、ベンチャーキャピタルによる保有株放出の可能性なども考慮し、上場初日の需給状況を予想いたします。

■ 類似企業

新規上場企業と同じ業種に属する競合他社や類似企業を取り上げて PER を併記いたします。PER の水準は初値の参考指標として有効です。